

## ◆ 平成28年度 活動報告シート ◆

団体名：埼玉の森林を考える会

19A-17

代表者：会長 安井敏晃

URL :

### 1. 活動が必要とされた状況

シカによる森林被害の拡大や大径木の減少等から樹洞性の野生動物が減少しています。シカの生息実態調査や樹木保護並びに樹洞性野生動物の生息調査と保護を行い生物多様性に富んだ埼玉の森林や自然の保全を進める必要があります。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- (1) 野鳥及び巣箱調査（4月～2月 76名参加）：県民の森に設置した大型巣箱及び夏鳥用巣箱の利用状況調査及び野鳥の生息調査を実施しました。今年度からヤマネ用巣箱を新たに設置して生息調査を開始しました。
- (2) 夜の野生動物観察会の実施（7月 11名参加）：（一社）埼玉県農林公社と共催した学習・観察を実施しました。
- (3) 森林におけるシカの影響調査（4月～2月 29名参加）：ライトセンサスや区画法調査を行いました。
- (4) 野生動物ガイドの作成（4月～2月）：これまでの県民の森内調査を踏まえ、県民が森林や野生動物に対して関心を深めてもらうためのガイドを作成しました。



夜の野生動物観察会（事前学習）

### 3. 活動の成果

- (1) 野鳥及び巣箱調査：通年で61種の野鳥を確認し、夏鳥等樹洞性鳥類は、2014年度に設置した夏鳥用巣箱6個の今年度の利用はありませんでした。大型巣箱10箇所のうち6箇所の巣箱がムササビに利用されました。そのうち1か所では4年連続して繁殖が確認されました。60箇所設置したヤマネ用巣箱では、内部に巣材のコケ、糞が10数箇所さらにヤマネを1箇所で確認できました。
- (2) 夜の野生動物観察会の実施：学習室で映像を見ながらシカの森林への影響や生息状況及び野生動物の生態学習後、車に分乗し、県民に森林と野生動物の理解を深めてもらいました。
- (3) 区画法調査の実施：シカ21頭を確認し、調査した面積62.02haでの生息密度は33.86頭/km<sup>2</sup>になりました。



ヤマネ巣箱調査（ヤマネ）



シカ区画法調査（事前打ち合わせ）

### 4. 今後に残された課題

野鳥及び巣箱調査では、想定された樹洞性野生動物を確認できました。ヤマネについては生息範囲や生息数を把握する必要があります。キビタキ、オオルリなどの夏鳥の繁殖状況把握は、巣箱が利用されていないので調査方法を検討する必要があります。

また、ニホンジカについては、日本各地と同様に埼玉県でも森林被害が大きな問題になっており生息実態や被害対策を進める必要があります。

この活動により知り得た情報を関係機関に提供するとともに観察会や報告会を通じて多くの県民の皆様にはじめとする自然環境の状況と保全の必要性を伝えたいと思います。